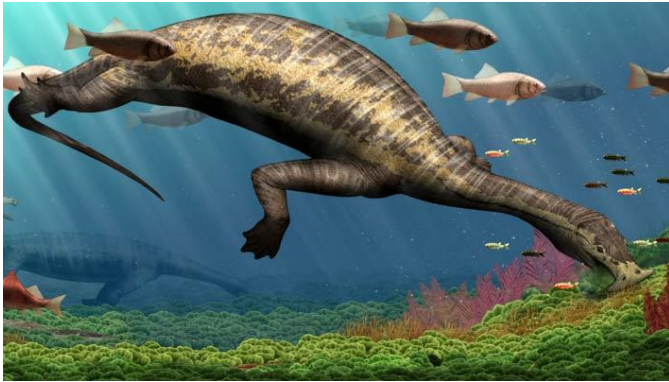


## 三疊紀中期の特異な顎をもつ草食性の海生爬虫類の発見

2014年に中国雲南省の三疊紀中期の地層から特異な顎をもつ海生爬虫類 (*Atopodentatus unicus*) が発見された。体長3メートルのワニぐらいの大きさ生き物であるが、顎の先端は硬くとがったたがねのような歯があり、その奥にはクギのような鋭く尖った歯がびっしりと並んでいた。発見当時は、フラミンゴのくちばしのように、海底に口をつけて食べ物を集めていたのではないかと考えられた。その後さらに保存の良い化石が発見され、特異な顎の形態に関する理解が進んだ。この化石を記載したL. チュンらの研究グループによる[1]と、口は先端部で平たく横に広がっていて、この部分を岩にあてて海藻をかじりとっていたと考えられた。その奥についているクギのような尖った歯が密集した部分では、かじり取った海藻や岩片から食べられる植物片を濾して食べていたとされた。この生き物は、草食性の海生爬虫類としては最古のものであるという。



[1] Chun, L. et al. (2016) The earliest herbivorous marine reptile and its remarkable jaw apparatus. *Science Advances*, 2, no.5. DOI:10.1126/Sciadv.1501659.